

# 北海道の湿原で繁殖する 謎多き夏鳥：センニュウの 生態解明に挑む

岩崎 美穂

北海道大学 大学院 理学院

自然史科学専攻 多様性生物学講座III



## 未来社会のあるべきかたち

- ◆ 豊かな自然環境とそこに生息する動植物の保全
- ◆ 湿原が提供する生態系サービスの持続的な活用
- ◆ 市民が湿原への関心を持ち、保全に協力する

**湿原**とは… 泥炭地上に形成された草原や、河川・湖沼・海岸の堆積作用で過湿に保たれている草原＝**湿った草原**

北海道内には、**150ヶ所、599 km<sup>2</sup>** の湿原（富士田ら, 1997）

### 湿地の機能

- ＞ 多様な生物の生息・繁殖地
- ＞ 水や空気の洗浄、天然のダム
- ＞ エコツーリズムなど観光資源

気候変動や人為的な開発で  
**面積が減少している**

### 湿原についての理解と保全

#### エゾセンニュウ

*Helopsaltes amnicola*

- ・ 大きい
- ・ 河畔林に棲む
- ・ 外に出てこない



eBird より

**ジョッピン、カケタカ！**

#### シマセンニュウ

*Helopsaltes ochotensis*

- ・ ヨシ原・牧草地に棲む
- ・ さえずる時は表に出てくる



**チチチ、チュイチュイチュイ！**

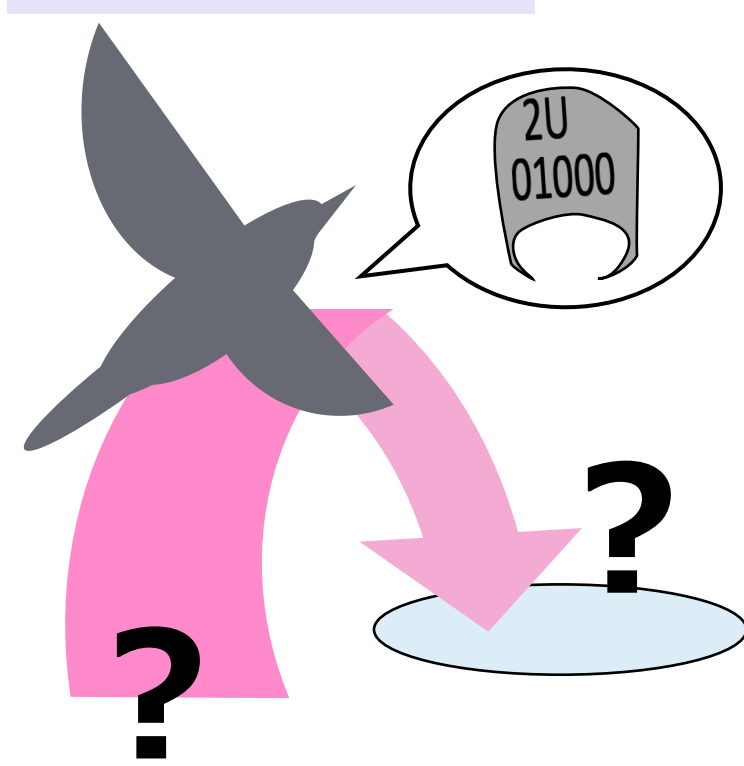
- ・ 夏に北海道の湿原に渡ってきて、同じ地域で繁殖を行う2種
- ・ 同じ*Helopsaltes*属のセンニュウ類＝系統学的には近縁

⇔ 体サイズ、生息環境、さえずりの声やさえずり方に大きな違い

**それぞれ「湿原」という環境に適応し、独自の戦略を得た！**

**基礎生態の解明**：センニュウ類は基礎的な生態から知見が不足

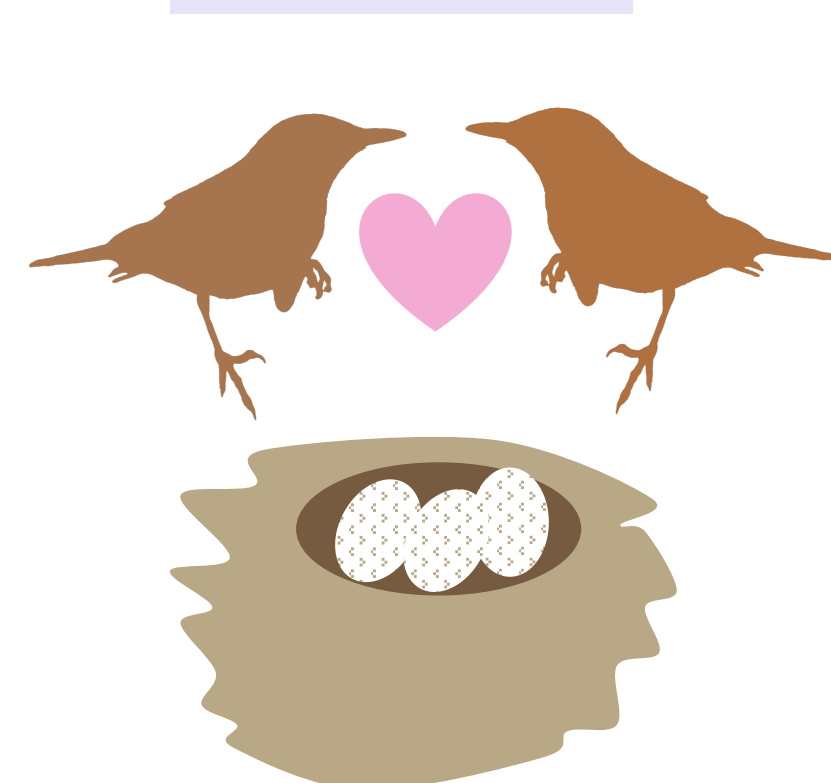
#### 渡り行動



#### さえずり行動



#### 繁殖生態



➡ 2種はそれぞれどのように湿原の中で生活し、繁殖するのか  
湿原という環境は2種の進化や暮らしにどのように関わるのか

未だ不明である湿原性のセンニュウ類の生態を解明することで、

- ・ 鳥類の進化と暮らしにおける湿原という環境の重要性の把握
- ・ 湿原の生態系の仕組みとその保全についての知見の蓄積
- ・ 市民の湿原への関心と保全活動への協力の促進 に繋がります！